

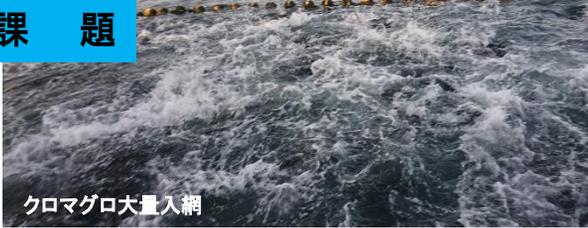
壱岐市郷ノ浦地区定置網漁業ビジネスモデル計画

【策定：郷ノ浦町漁協定置網漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

背景

郷ノ浦地区の定置網では、マアジやイカ類、ヒラマサなどが主要な漁獲対象となっているが、夏季に豆アジなどが大量入網し、漁獲の選別作業に多大な時間を要している。さらに、クロマグロ小型魚の入網頻度が高くなったことにより、クロマグロ以外の魚種の漁獲減少や品質の低下が問題となっている。

課題



漁獲量の減少

クロマグロの入網によって主要魚の漁獲が減少

漁獲物品質低下

豆アジ等の大量入網時、船上選別作業増
クロマグロの入網時、主要魚の品質が低下



未利用魚の存在

安価な魚種は水揚げすることなく、海上で再放流



雇用の確保

島内外から就業者を確保しても長続きしない

取組の方向性

「大型魚と小型魚を分離する漁具の改良」と「地元加工、養殖との連携」により、漁獲物の付加価値向上を図り、収益性の向上を目指す。

計画内容

①箱網改良による漁獲物の付加価値向上

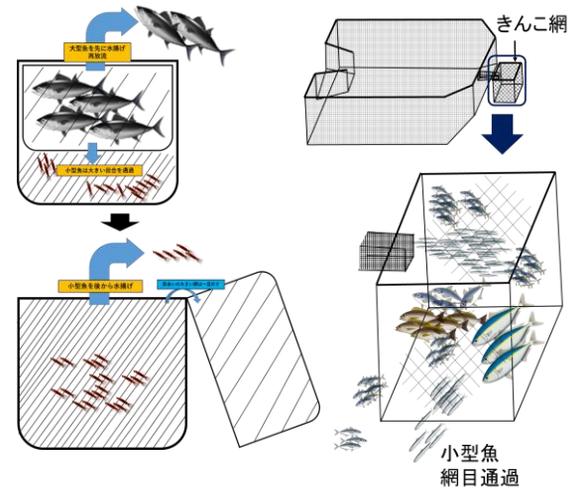
- ・新規箱網導入（2漁場共通）
→潮流による漁具の変形を抑制し、漁獲増加
- ・大目分離網導入（半城漁場）
→大型魚とマアジ、イカ類の分離による品質向上
- ・大目きんこ網の導入（大島漁場）
→主要魚種の蓄養、豆アジなどの網目通過

②地域加工業者や魚類養殖との連携

- ・地域加工、魚類養殖へ漁獲物出荷
→高鮮度原魚の加工による加工品の差別化
→小型魚（サバ、ソウダガツオ）の養殖用餌料出荷

③雇用の確保・改善

- ・雇用の確保 雇用者数現状維持（H29年:1人増）
- ・休日の増加 第2、第4土曜日の半日勤務



地域を牽引するビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 就労環境改善と雇用の確保

KPI (重要業績指標)

	基準年(直近2年平均)	H32(目標年)
○付加生産額 (営業利益、人件費、減価償却費)	42百万円 →	48百万円
○休日の増加	年85日 →	年97日